



校長通信『道標(みちしるべ)』 第9号

令和3年1月6日

福岡県立若松商業高等学校 校長 谷川 陽一



令和2年度 第3学期の始業式に当たって「文化を知る愉(たの)しみ」

今年の干支(えと)は辛丑(かのとうし)です。若商にとって特別な意味がある年となります。干支とは、十干(じっかん)と十二支(じゅうにし)による組み合わせで、主に暦(こよみ)を数えるのに用いられます。

十干		十二支	
甲	こう	子	ね
乙	おつ	丑	うし
丙	へい	寅	とら
丁	てい	卯	う
戊	ぼ	辰	たつ
己	き	巳	み
庚	こう	午	うま
辛	しん	未	ひつし
壬	じん	申	さる
癸	き	酉	とり
		戌	いぬ
		亥	い

例えば、十干で「甲」十二支で「子」の年であれば干支は「甲子(きのえね)」、十干で「乙」十二支で「丑」の干支は「乙丑(きのとうし)」と表します。

ちなみに、明治維新の際の内戦である「戊辰(ぼしん)戦争」は戊辰(明治2年:1868年)の年に始まりました。また、高校野球で有名な「阪神甲子園球場」は甲子(こうし:大正13年:1924年)の年に完成したので、このように名付けられました。

十干と十二支の組み合わせは60通りあり、干支は60年で一周します。人の年齢が60歳のことを還暦(かんれき)と呼びますが、これは60年で暦が一周して生まれ変わり、新しい寿命を授かると捉えられ、「赤子(赤ちゃん)に還(かえ)る」という意味で、現代でも「赤いちゃんちゃんこ」と「赤い頭巾(ずきん)」を贈る習(なら)わしがあります。

若商は庚子(昭和35年:かのえね)の年に誕生しました。それから60年、昨年還暦を迎えました。つまり本年(辛丑:かのとうし)は暦が巡って次の60年への新たな始まりの年なのです。

若商は新たなスタートの年となります。商業教育の「標(しるべ)の構築をめざし大還暦(だいかんれき:創立120年)に向け、新たなる大航海へ船出します。

生徒のみなさんも本校のスクールカラー真紅(しんく)のごとく、真っ赤な情熱と高い志をもって、将来の目標に向け全力で漕(こ)ぎ出しましょう。

第3学期 始業式 校長式辞から



「若松を見つめ、若松を動かす」・・・地域活性化をめざして

12月16日(水)若松区役所において、本校生徒会役員から地元のまちづくりに役立てるため、令和元年度の若商祭(若商バザール部門)売上金の一部である10万円を寄付しました。

寄付金は若松区役所がすすめる地域まちおこし「若松プライド・プラスワン」に活用されます。(12月29日西日本新聞朝刊に記事が掲載されました)

今後も若商は地元である「若松を見つめ、若松を動かす」を旨(むね:考えの中心)として、地域の活性化に力を注ぎます。



商業関係競技大会 若商大活躍

12月19日(土)県内の商業に関する学科・科目を学ぶ生徒たちが、日ごろの学習成果を競い合う各競技大会が行われました。例年では「商業オリンピック」として【生徒商研】【簿記】【珠算・電卓】【英語実務】【ワープロ】【情報処理】などの各競技会が一つの会場で行われますが、本年度は3密を避けるため別々の会場で行われました。

祝



福岡県高等学校ワープロ競技大会新人戦

- 祝 団体3位入賞
- 祝 個人速度部門3位入賞

福岡県高等学校珠算・電卓競技大会新人戦

- 祝 電卓の部・団体総合競技3位入賞
- 祝 電卓読上算の部位3位入賞

